

『一〇〇万回生きたねこ』を読んで

弘前市立大成小学校

小堀 和華

わたしは、小さい時からこの本を持っていました。おばあちゃんが買ってくれたそうです。読んで聞かせてもらったり、絵を見てねこの真ねをしたりしていました。今回、感想文を書いたためにはじめて自分で全部読んでみました。そうしたら今まで何回も読んでもらっていたはずなのに、ちがう発見がたくさんありました。

この本は、何回ものねこの人生を書いていました。どうして一〇〇万回なのかなあと題を見て思っていました。それほど言いあらわせないくらいたくさん、このねこがけいけんしたということなのだろうなと思いました。書き方が全部同じで読みやすかったです。文章と絵が組み合わさっているのイメージしやすかったです。絵はまるで絵のぐでかいばかりのようなにじみとかがあって、何回もさわってみましたが、でこぼこしているところはありませんでした。どんな次が読みたくなって、あつという間にさい後のページでした。

ねこは、だれにかわれてもしあわせではなかったから、一回もなかなかたし、なつとくがいかないうちから何回も生き返ったのかなと思います。でものらねこになった時、はじめて自分の人生で自分のことが大すきだという気持ちかわいて、生きていることを実感していました。たくさんめすねこにすかれて色々なアプローチをうけたのに、全く自分にきょう味がなさそうめすねこにひかれて、びっくりしました。白いねこのどがすきだったのかなあ。今までかわれてきたかい主のことはみんなきらいで、自分のことが一番すきだったのに、白いねこに会って、自分よりもすきになるということがすごいへんかだなと思いました。そして今まで一度もないことがなかったのに、白いねこが死んで自分が死ぬまでなきつづけるのは、本当にすごいと思いました。それだけ白いねこがすきだったんだなと思いました。

さい後にもう生き返らなくなったのは、白いねこがいなくて、ここに生き返っても仕方がないと思ったからかなと感じま

した。白いねここに会えて、相手をすきな気持ちやしあわせ、
かなしみが分かってよかったなと思いました。ねこはもう生
き返らないけど、さい後にとてもしあわせな人生を送れてわ

たしもうれしくなりました。ねこと白いねこは、天国でしあ
わせにしていると思います。